

各単元に、「読む」「書く」いずれかの領域が設定されています。

第一部

一

論理国語へのいざない

読む 読書アイコン

論理力と思考力

納得の構造

情報の「メタ」化

学びを広げる 中身当てクイズ

コラム 「流れ」と「構え」

石黒圭 36

佐藤雅彦 34

外山滋比古 26

渡辺雅子 19

野矢茂樹 14

二

「情報社会」を生きる I

読む 読書アイコン

ぬくみ

ネット上の発言の劣化について

マルジャーナの知恵

学びを広げる 情報社会について考える

コラム 遅いインターネット

宇野常寛 62

岩井克人 56

内田樹 48

鷺田清一 40

三

環境問題を考える

読む 読書アイコン

世代間倫理としての環境倫理学

人類による環境への影響

学びを広げる 環境問題について考える

資料 「企業の社会的責任（CSR）」について

萩原愛一 84

加藤尚武 66

鷺谷いづみ 74

四

言葉をみつめる I

読む 読書アイコン

記号を使う動物

言葉がつくる女と男

学びを広げる 言葉の力について考える

コラム ツイッター哲学

千葉雅也 105

池上嘉彦 90

中村桃子 98

斎藤幸平 86

五

生命について考える

書く 手書きアイコン

病と科学

動的平衡

ゲノム編集とiPS細胞

学びを広げる 生命について考える

資料 iPS細胞と生命倫理

野家啓一 132

山中伸弥 126

福岡伸一 116

柳澤桂子 108

赤塚京子 134

六

芸術について考える

書く 手書きアイコン

ミロのヴィーナス

空白の意味

学びを広げる 美術作品を紹介しよう

原研哉 145

清岡卓行 138

目次 3

環境問題を、人間の営みとの関係や社会的責任にも触れつつ考える単元です。

論理展開がわかりやすい評論で、「論理国語」の学びへの導入を意識付けます。

### 七

#### 科学技術と人間

読むこと

「なぜ」に答えられない科学

AI時代の「人間」

学びを広げる 科学技術と人間について考える

コラム 人間を「機械」にする異

伊藤亜紗 172

堀内進之介 164

池内了 158

コラム 「あなただけのかえる」の見つけ方

末永幸歩 154

### 八

#### 「市民社会」について考える

読むこと

「市民」のイメージ

「である」ことと「する」こと

学びを広げる 「市民社会」について考える

資料 国政選挙における年代別投票率について 総務省

コラム 懐疑をいかに乗り越えるか

橋爪大三郎 196

丸山真男 182

日野啓三 176

「18歳成人」となる高校生として学ぶべき、シチズンシップ教育にもつながる単元です。

第二部では、第一部に比べて「社会」との関わりという観点を強め、各テーマにおける思考を深めていく教材を掲載しています。

### 第二部

### 一

#### 「情報社会」を生きるII

読むこと

情報ネットワーク社会

擬似群衆の時代

流言とメディア

学びを広げる メディアリテラシーについて考える

コラム ネガティブ・ケイパビリティ

答えの出ない事態に耐える力 220

中村雄二郎 200

港千尋 204

佐藤卓己 213

### 二

#### 言葉を見つめるII

読むこと

夢は何語で見える？

「対話」の言葉をつくる

学びを広げる 外来語について考える

資料 カタカナ語は享受すべきか

コラム 「母国」という幻想

川口良・角田史幸

温又柔 242

多和田葉子 224

平田オリザ 232

### 三

#### 共生社会を創造する

読むこと

母親のための酸素マスク

講演 持続可能な福祉社会への道

宮地尚子 246

広井良典 250

夏目漱石、北村透谷という近代文学作家の文章を学ぶことで、現代を客観的に俯瞰し、批評する力を養います。

### 四

#### 経済について考える

書くこと

学びを広げる「福祉社会」を考える……………阿部彩 258

コラム 社会的包摂と震災……………阿部彩 257

### 五

#### 国際社会を考える

読むこと

「私」消え、止まらぬ連鎖……………高村薫 262  
落語の中の経済学……………大竹文雄 267  
「欲望」と資本主義……………佐伯啓思 275  
学びを広げる 経済との関わりから社会的課題について論じる……………元村有希子 284  
コラム 「人新世」に生きる……………286

### 六

#### 心と向き合う

読むこと

恐怖とは何か……………岸田秀 320

### 七

#### 「リスク社会」を生きる

書くこと

生命との関わり 精神科医としてある〈共生〉の経験から……………石原吉郎 334  
学びを広げる「人の心」について考える……………341  
コラム 対談 褒めるといふこと……………森俊夫・黒沢幸子 342

### 八

#### 近代・現代社会を考える

書くこと

コンコルドの誤り……………長谷川眞理子 346  
リスク社会論……………大澤真幸 352  
学びを広げる「リスク社会」について考察する……………夫馬賢治 361  
コラム 「真水」はわずか二・五%……………枝廣淳子 364  
現代日本の開化……………夏目漱石 375  
漫罵……………北村透谷 386  
学問のすすめ……………福沢諭吉 391  
学びを広げる 近代・現代社会を批評する……………395  
コラム 神になった動物……………ユヴァル・ノア・ハラリ 396

目次 7

生徒たちがこれから向かっていく社会について、主に「経済」の視点から考える単元です。

読書の扉  
222 38  
244 64  
260 88  
288 106  
318 136  
344 156  
366 174  
398 198

資料編  
現代社会を読み解くために  
1 近代・現代社会……………400  
2 環境問題……………402  
3 言語……………404  
4 グローバリゼーション……………406  
5 生命・身体・科学……………408  
6 メディア・情報……………410  
7 芸術・文化……………412  
8 心理・認知……………414  
情報の読み方・扱い方……………416  
報道の文章……………420  
調査から発表へ……………423  
読解から表現へ……………426  
1 引用……………426  
2 比較……………427  
3 要約……………428  
4 調査……………429  
5 論理 a 根拠と主張……………430  
6 論理 b 接続……………431  
7 推論……………432  
論文・レポートの書き方……………巻末

各単元・教材で身につける力と教材、言語活動の一覧を提示。見通しと振り返りをもって学習活動に取り組みます。

書く			
八	七	四	
近代・現代社会を 考える	「リスク社会」を 生きる	経済について 考える	
学びを広げる 学問のすすめ 漫遊 現代日本の開化	学びを広げる 「リスク社会」について考察する コンクリートの時代	学びを広げる 「欲望」と資本主義 経済との関わりから社会的課題に ついて論じる	「私」消え、止まらぬ連鎖 落語の中の経済学 「欲望」と資本主義 学びを広げる 経済との関わりから社会的課題に ついて論じる
現代社会を歴史の中で捉え直し、批評し合おう	「開化」の時代に対する透谷の論点を理解する 現代の視点から捉え直す	人はなぜ「意思決定」を誤るのか、人間の思考について考える 「リスク社会」の分析をおして現代社会の諸課題を考察する 「リスク社会」の観点から、身近な水の問題を考えてみよう コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える	高度消費社会における「欲望」について考える 落語「千両みかん」を経済学的な視点で読み直す 社会的課題を経済活動と関連させて論じ、 課題解決の方策を発表してみよう
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○

書く				領域
三	第二部	六	第一部	単元
共生社会を 創造する	言葉を見つめるⅡ	芸術について考える	生命について 考える	単元名
学びを広げる 「福祉社会」を考える	「対話」の言葉をつくる 外來語について考える 母親のための酸素マスク	空白の意味 学びを広げる 美術作品を紹介しよう 夢は何語で見る？	動的平衡 学びを広げる 生命について考える ミロのヴィーナス	教材
「福祉社会」に向けての課題と可能性を理解する	「対話」の言葉のあり方を考える 「外來語の氾濫」についてどのように考えるか、 短い論文を書いてみよう いま求められるケアについて考える	芸術作品における「空白」の意味について考える 自分の感じたことや考えたことをもとに、美術作品の紹介文を 書いてみよう 多言語社会の現実や「可能性」について考える	生命とは「動的平衡」のシステムであるという考え方を理解する 生命科学の可能性と課題について考える さまざまな観点から生命について調べ、 自分の考えを文章にまとめよう ミロのヴィーナスの「魅力」について考える	身につけたい言葉の力と言語活動
○	○	○	○	題材の設定
○	○	○	○	情報の収集
○	○	○	○	内容の検討
○	○	○	○	構成の検討
○	○	○	○	考えの形成
○	○	○	○	記述
○	○	○	○	推敲
○	○	○	○	共有
○	○	○	○	情報と情報との 関係
○	○	○	○	情報の整理

この教科書で身につく言葉の力（観点別言語能力一覧）◎は中心になるキーワード

単元のキーワード

読む		読む	
六	五	第二部 一	八
心と向き合う	国際社会を考える	「情報社会」を生きるII	「市民社会」について考える
学びを広げる 「人の心」について考える	ある(共生)の経験から 生命との関わり 恐怖とは何か 「多文化共生社会」について考える	「文化が違ふ」とは何を意味するのか? 「多文化共生社会」の構築のために私たちはどのように行動すべきか、資料を読んで考えよう	「なせ」に答えられない科学 AI時代の「人間」 学びを広げる 科学技術と人間について考える 「市民」のイメージ 「なせ」について考える 「市民社会」について考える 学びを広げる 情報ネットワーク社会 擬似群衆の時代 流言とメディア 学びを広げる メディアリテラシーについて考える
「人の心」について考えたこと、発見したことを文章にまとめよう	「多文化共生社会」の構築のために私たちはどのように行動すべきか、資料を読んで考えよう 人はなぜ「恐怖」を感じるのか、「自我」との関わりから理解する 生命と「相互主体的に関わる」とはどういうことか考える 「文化相対主義」を検証する 現代の「貧困」問題を構造的に捉え直す スポーツとナショナリズムの関係を考察する AI時代のメディアリテラシーについて考察する 情報社会を生きるためのメディアリテラシーについて自分の考えをまとめよう 「市民社会」における権利と義務について考える 資料を読み、「市民社会」について自分の考えをまとめ、討論しよう 情報ネットワーク社会の課題を明らかにする メディアと「群衆」の新たな関係を考える AI時代のメディアリテラシーについて考察する 情報社会を生きるためのメディアリテラシーについて自分の考えをまとめよう	科学の知とどのようなものかを理解する AIとの対比から「人間」についての理解を深める 学術的な文章を読んで、「科学技術と人間」について自分の考えを発表しよう アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える 「市民社会」における権利と義務について考える 資料を読み、「市民社会」について自分の考えをまとめ、討論しよう 情報ネットワーク社会の課題を明らかにする メディアと「群衆」の新たな関係を考える AI時代のメディアリテラシーについて考察する 情報社会を生きるためのメディアリテラシーについて自分の考えをまとめよう	科学の知とどのようなものかを理解する AIとの対比から「人間」についての理解を深める 学術的な文章を読んで、「科学技術と人間」について自分の考えを発表しよう アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える 「市民社会」における権利と義務について考える 資料を読み、「市民社会」について自分の考えをまとめ、討論しよう 情報ネットワーク社会の課題を明らかにする メディアと「群衆」の新たな関係を考える AI時代のメディアリテラシーについて考察する 情報社会を生きるためのメディアリテラシーについて自分の考えをまとめよう

読む				領域
四	三	二	第一部 一	単元
言葉をみつめるI	環境問題を考える	「情報社会」を生きるI	論理国語への いざない	単元名
学びを広げる 言葉の力について考える	学びを広げる 環境問題について考える 記号を使う動物 言葉がつくる女と男 言葉の力について考える	ネット上の発言の劣化について マルジャーナの知恵 学びを広げる 情報社会について考える 世代間倫理としての環境倫理学 人類による環境への影響 環境問題について考える 記号を使う動物 言葉がつくる女と男 言葉の力について考える	論理力と思考力 納得の構造 情報の「メタ」化 学びを広げる 中身当てクイズ ぬくみ 都市生活における自己と他者の関係について考える 情報の階層化が進むなかで「言論の自由」の意味について考える 「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する 情報社会を生きるうえで大切なことは何か、考えたことを発表しよう 未来世代への責任という観点から環境問題を考える 人類史から環境問題を考える 「企業の社会的責任(CSR)」について調べ、考えたことを発表しよう 記号としての言語について理解する 読み比べをとおして「創造性」という観点から、言葉の力について論じよう	教材
			思考力と対比して論理力とは何かを考える 論理の組み立てと文章構成の関係について理解する 情報の「メタ」化を理解し、思考を整理する方法を考える 情報から導いた答えを論理的に説明してみよう 都市生活における自己と他者の関係について考える 情報の階層化が進むなかで「言論の自由」の意味について考える 「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する 情報社会を生きるうえで大切なことは何か、考えたことを発表しよう 未来世代への責任という観点から環境問題を考える 人類史から環境問題を考える 「企業の社会的責任(CSR)」について調べ、考えたことを発表しよう 記号としての言語について理解する 読み比べをとおして「創造性」という観点から、言葉の力について論じよう	身につけたい言葉の力と言語活動
				単元のキーワード
			構造と内容の把握	
			精査・解釈	
			考えの形成	
			共有	
			情報と情報との関係	
			情報の整理	

「単元のキーワード」で、各単元が内容理解→考えの形成→共有・結びつけという学習の流れで構成されていることを示しています。

教科書の凡例を提示しています。

この教科書を使うために

● 全体の構成

この教科書は、書く、読む力をつける第一部から八、第二部一から八の単元と、さまざまな言語活動で活用するための「資料編」で構成されている。

● 単元扉

単元および各教材の学習の目標と活動を示した。

● 各教材の下段の注欄には、次の項目を設けた。

◆ 脚注 1、2……の番号をつけ、固有名詞や難解な語句、理解の必要な言葉などを解説した。

◆ 脚問 内容理解の手がかりになる箇所に①②……の番号をつけて、簡単な問いとして問①のように掲げた。

◆ 語句 \*をつけ、意味や用法に注意して身につけておきたい語句を抜き出して示した。

◆ 各教材の末には、次の項目を設けた。

● 課題 A 文章の内容を理解し、考え、言語活動への手がかりとなる問いを設けた。

● 課題 B 理解した文章の内容をふまえ、協働的、主体的にその理解をより深めるための学習課題を、問いや作業の示唆の形で盛り込んだ。

◆ 語句 教材中の語句に着目し、語彙力を高めるための

問いを設定した。

◆ 漢字 常用漢字の習得のために、教材中の注意すべき漢字を選び掲載した。

● 学びを広げる

各単元には、書く、読む、それぞれの単元の目標に対応し、言葉の学びを協働的、主体的に深め、広げる言語活動を設けた。

● 単元の振り返り

各単元末には、単元の学習を振り返って確認し、次の学習に生かせるよう、単元の振り返りを設けた。

● 読書の扉

読書に親しみ、読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介した。

● 参照ページ・行

「課題 A」「課題 B」などで教材本文を引用する場合や、参照すべき箇所を示す場合、引用文の下に(31・10)をつけて示した。上の数字がページ、下の数字が行を示す。

● 二次元コード

適宜、二次元コードを付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載した。なお、二次元コードのページには、以下の URL からアクセスできる。

<https://ibqr.sansendo-publ.co.jp/05-scisennonri/contents/>

単元扉では教材一覧のほか、**単元および各教材のテーマ・学習のねらいを明示**しています。

三

環境問題について調べ、その成果を発表しよう

環境問題について調べ、その成果を発表しよう



世代間倫理としての環境倫理学

未来世代への責任という観点から環境問題を考える

人類による環境への影響

人類史から環境問題を考える

学びを広げる

環境問題について考える

資料 「企業の社会的責任（CSR）」について

「企業の社会的責任（CSR）」について調べ、考えたことを発表しよう

「コラム」「人新世」の環境危機

加藤尚武

萩原愛一

齋藤幸平



関連ウェブページ・動画などの参照リンクにアクセスできます。

## ■ 世代間倫理としての環境倫理学 加藤尚武

一千億トンの石油があるとして、私が百億トン使えば、私の次に来る人には九百億トンしか使う可能性がない。私には他人の可能性を狭めるという形で他人に危害を及ぼすことなく石油を使うことができない。自由主義の原則に他者危害排除の原則が含まれる以上は、私に他者の権利を侵害しないで石油を使うことができない。ところが実際には、人類の歴史の中では、一パーセントにもならない近代——現代人が化石燃料を使い切ってしまう。未来世代から、化石燃料を使う可能性を奪ってしまう。これは現在世代の未来世代に対する一種の犯罪である。

環境倫理学の特徴は世代間関係の重視、あるいは未来の人間の生存権の保証という思想である。権利の拡張という問題を別の角度から見ると倫理的決定システムの時間構造の問題となる。環境や資源の問題の加害者は現在世代である。その被害者は未来世代である。

「世代間倫理」が存在しないならば、環境問題は解決しない。近代社会の作り上げた倫理的決定システムは「相互性」を特徴としている。「私が他人に認めてもよいと思う権利を自分も持つことに満足しなくてはならない。」（ホッブス）、<sup>2</sup>「他の人も同じことをするという想定のもとに正義の規則に従うことを表明する。」（ヒューム）、<sup>3</sup>「汝の意志の格律が普遍的な立法の原則となるように行為せよ。」（カント）<sup>5</sup>——これらの言葉は人格と人格、市民と市民との間の「相互性」が倫理の原型であることを告げている。

ところがこの人格間の相互性は、現実には常に「現在の同意」に、現在の世代内での相互性に帰着する。例えば土地の所有権の争いが起こるとする。双方が、先代とか先々代の古い証文を持ち出すだろう。当然どの証文が有効かという争いになる。その争いは、現在の証文によってしか決められない。だから、結局は過去の問題が争いの的になっても、現在の証文、現在の証人が決め手になる。近代的な決定システムは、現在性というあり方に向けて完成しつつある。

結婚を例にとってみよう。何のために結婚するのか。当人の幸福のためであるというものは現在の常識である。今、家のため、家系を絶やさないために結婚するなどと言ったら、奇人扱いされてしまう。しかし、江戸時代ではこれが常識である。過去からつながる世代の連続の中に結婚が位置づけられている。だから結婚は未来世代を作るためだという観念

●参照  
現代社会を読み解くために  
2 ↓ 402 ページ

1 化石燃料 石炭・石油・天然ガスなど、太古の動物の遺骸が地下で変化して生成した燃料のこと。

問① 「これ」は何を指すか。

適宜、発問を置き、スムーズな読解につなげます。

2 ホッブス Thomas Hobbes  
一五八八年～一六七九年。  
イギリスの哲学者・政治思想家。

3 ヒューム David Hume  
一七二一年～一七七六年。  
イギリスの哲学者・歴史家。

4 格律 主観的・個別的な行為の規則。

5 カント Immanuel Kant  
一七二四年～一八〇四年。  
ドイツの哲学者。

\* 語句  
帰着

も含まれている。

封建的なシステムでは、世代間のバトンタッチという形で倫理ができ上がっている。結婚は当人の幸福のためという近代的なモラルには、世代間の関係は組み込まれていない。現在では、結婚が古い世代からの若い世代の離脱という性格を示している。結婚式は、若い世代のモラルがどれだけ古い世代の倫理と違うかを強調する形になっている。

人類は近代化によって、「過去世代にはもう遠慮はしませんよ。」という文化を作り上げた。それが実は、「未来世代にも責任を負いません。」という反面を含んでいる。つまり封建倫理は単に古い世代の支配だというのは、近代主義者の偏見であって、封建倫理は未来世代のための倫理でもあったのだ。「家」という観念には、未来世代の繁栄を願う気持ちも含まれていた。

近代主義が進歩の風を吹かしている間は、未来世代と利害が一致しているためだ。\*「未来世代は僕たちよりもっとずっと幸せになれる。」という信念が進歩主義であるからだ。進歩主義は、自分で未来世代の生存条件を悪くしておいて、未来世代が自分より繁栄すると信じているのだから、ひどいうそつきである。先祖の遺産を浪費してしまつて、後の世代には何も残さなくせに、俺は子孫のために自動車を発明してやつたなどと得意がっているのが現代文化である。

例えば放射性の廃棄物を未来世代に残す。決定システムが現在性をもっているから、そのシステムの中では環境汚染の被害者となるかもしれない未来世代からの同意を取りつけることができない。地球の生態系が数千年をかけて蓄積した化石エネルギーをわずか数百年の世代が使い果たしたとしても、未来世代にはそれを阻止すべく相互性を発揮することができない。すなわち相互性の倫理には、<sup>⑤</sup>現在世代の未来世代に対するエゴイズムをチェックするシステムが内蔵されていない。

環境を不可逆的に汚染し、有限な資源を使い果たすという現代文化のもつ体質は、近代人の考えた「進歩」という歴史像が絵にかいた餅にすぎないことを告げている。現在が未来を食いつぶしている。それなのに現代人の多くが、人類は相変わらず進歩の坂道を上り続けていると信じている。現在世代が未来世代に進歩という贈り物をしていると信じ込んでいる。現代は進歩が虚偽と欺瞞<sup>\*ぎまん</sup>になつている時代なのである。

化石エネルギーを利用する限り、必ず地球生態系の破壊が進行する。有限な埋蔵資源に依存するような生存条件、例えばエネルギー戦略は、未来世代の生存可能性を破壊する。倫理的に許容可能な形態は、太陽エネルギーを用いた資源の循環的な使用ということになる。もしも世界の人口が定常化するという未来像が正しいとするなら、定常化時代の文化は資源の循環的使用という構造的な特色をもたざるを得ないだろう。

本文紙面では文章の読みに集中できるよう、脚注・語句は必要最小限にとどめています。

<sup>⑤</sup> 問 「現在世代の未来世代に対するエゴイズムとは何か。」

<sup>⑥</sup> エゴイズム egoism (英語) 利己主義。自己の利益だけを重んじる考え方。

\* 語句  
たてまえ 絵にかいた餅  
虚偽 欺瞞

席にはまだ誰も座ってはくれない。

未来への責任という倫理を、近代倫理の構造的な欠落であると謙虚に認め、そして現在世代は未来の人類の生存のための犠牲を支払わなくてはならない。これが現在世界の最も中心的な課題である。

有限な資源を未来の人間と奪い合うという関係そのものを回避しなければならない。するとエネルギーについては、太陽エネルギー<sup>14</sup>だけを使って、化石燃料は使わないという決定を下さなくてはならなくなる。埋蔵資源については、循環的に使って、未来の人間が、同じ物質を再利用できるという使い方をしなければならぬ。

実際には、人間の関与がなくても地球の生態系の自然老化という経過もある。だから、完全に循環型にするという要求は無意味である。問題は未来世代と現在世代が共存型になることである。少なくとも現在の文明は共存を現実には否定している。未来人を殺害しようとしている。人類が共存の責任を引き受けることが、まず肝心だろう。そこから維持可能な地球に向けて、現実的なシナリオを作らねばならない。

その責任を引き受けないことにはだめである。なぜ現在世代は未来の人間の生存可能性を保証するために犠牲を強いられるのかという疑問に、「責任あり」と答えなくてはならない。

（出典『環境倫理学のすすめ 増補新版』二〇二〇年）



加藤尚武 一九三七（昭和一二）年。哲学者。東京都の生まれ。生命や環境に関するテーマで、現代が直面する倫理的問題について新しい見地から分析している。著書に『バイオエシックスとは何か』『形の哲学』『環境と倫理』などがある。

課題 A

- 一 次の部分はそのようなことを言っているか、説明してみよう。
- ① 「近代的な決定システムは、現在性というあり方に向けて完成しつつある。」（67・11）
- ② 「現代は進歩が虚偽と欺瞞になっている時代なのである。」（69・11）
- ③ 「進歩が退廃である時代に生きている。」（70・16）
- 二 筆者は、なにが「現在世界の最も中心的な課題である。」（72・3）と論じているのか、まとめてみよう。

課題 B

- 一 私たちの身の回りで、未来世代への責任を果たすため環境問題に取り組んでいる例を調べ発表してみよう。
- 二 次の語句の意味を調べてみよう。

語句

- 一 次の語句を使って、短文を作ってみよう。
- ① 絵にかいた餅 ② 湯水のように

保証・保障・補償

漢字

- 排除 66 侵害 66 繁栄 68 浪費 68 廃棄 69 汚染 69
- 蓄積 69 阻止 69 虚偽 69 埋蔵 69 循環 69 恩恵 71
- 窮乏 71 謙虚 72 回避 72 関与 72

課題 A は内容理解、課題 B は話し合いや発表による課題を設定しています。

\* 語句  
共存

問 5 「その責任」とは何を指すか。

14 太陽エネルギー 太陽から太陽光として地球に到達するエネルギーのこと。

漢字・語句は教材後に取り立てることで、**教材の読解・課題に集中**できます。

## ■ 人類による環境への影響 鷺谷いづみ

人類は化石人類の時代から、時代とともに環境への働きかけを強めてきたと推測される。ホモ・サピエンスが言語とともに征服型ともいえる対環境戦略を手に行き届けることにより、その働きかけに質的な変化がもたらされた。そして今日、ついにそれは地球の限界を超えるまでに強まり、大気組成の急速な変化や生物の大量絶滅の危険の高まりにもみられるような環境の急速な変化をもたらしている。

人類の影響の増大は、テクノロジーの発達による資源利用効率の向上に基づくヒト一人あたりの環境へのインパクトの増大と、時代とともに加速された人口増加の両方の相乗効果である。環境を変える作用は、ヒトの活動の量だけでなく、その質に大きく依存する。さらに、ヒトの働きかけと、それに対する環境の反作用は等差級数的な関係にあるのではなく、作用がある規模を超えると突如として異質な領域への飛躍が起るようなダイナ

● 参照

- 1 現代社会を読み解くために 2 ↓ 402 ページ
- 2 化石人類 一万年以上前に生存し、現在は化石として発見される人類。猿人、原人、旧人、新人に大別される。
- 3 ホモ・サピエンス Homo sapiens (ラテン語) 動物分類上、現生人類の属する種の学名。ヒト。
- 4 インパクト impact (英語) 強い影響や印象。衝撃。

各単元とも、テーマに基づく複数の教材が配置されています。

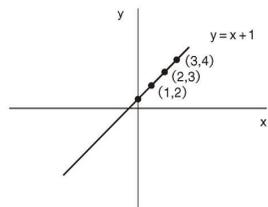
ミツクな関係である。その飛躍の行き着く先が著しい生態系の不健全化であるとすれば、人類の持続可能性は大きく損なわれることになる。

人類の対照的な二つの対環境戦略、「共生型戦略」と「征服型戦略」のいずれがより優勢であったかは、時代や場所によって異なっていたであろう。

人類の歴史の大部分を占める狩猟採集経済の時代には、ヒトが環境へ及ぼすインパクトはおおむね、一時的、局所的なものであったであろう。しかし、その場所の生物生産性の大きさ、そこで生活した移住者の資源利用に関する習性、あるいは繰り返し訪れた気候変動などにより、環境との相互作用は時代や場所で大きく異なるものであったはずである。

農耕・牧畜の始まった新石器時代においても、森や水辺の豊かな自然に恵まれ、しかも共生型戦略に欠かせない資源の持続的利用の知恵を身につけたグループは、狩猟採集を営みながらもその場所の生態系と調和した定住生活を営むことができたであろう。それとは対照的に、生産性の低い土地での生活を余儀なくされ、略奪的な資源利用の術にたよらざるをえなかったグループは、局所的に環境を荒廃させながら次々に新たな土地に侵入するような放浪生活を営まざるをえなかったであろう。その場合、グループ間の資源をめぐる競争も熾烈なものとなり、征服者としてあるいは敗残者として、人々をさらに移住へとかりた

4 等差級数 一定の差で並んでいる数字を積算していくこと。



5 ダイナミック dynamic (英語) 力強く、躍動感があるさま。

＊ 語句

相乗的 局所的 余儀なく 熾烈

「学びを広げる」は、各単元のテーマに関連する、**言語活動を中心とした教材**です。

学びを広げる

環境問題について考える

次の資料を参考に、「企業の社会的責任(CSR)」への取り組みの例を調べてみよう。その上で、「トリプルボトム・ライン」の観点から評価したり、話し合ったりした内容を発表してみよう。

資料

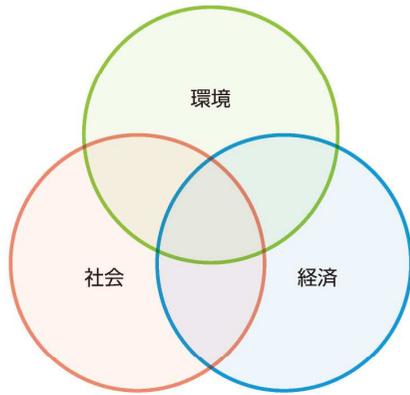
「企業の社会的責任(CSR)」について

萩原愛一  
はぎわらあいひ

「企業の社会的責任」とは、英語のCorporate Social Responsibilityの訳であり、我が国でも、その頭文字をとったCSRという略語が、急速に普及している。ここでも、特に断らない限り、CSRの語を使用する。

CSRの明確な定義は今のところない。しかし、おおよそ、次のような点が、共通の理解と考えることができよう。昨今の「企業の社会的責任」論の根底にあるのは、企業の行動や果たすべき機能として、利潤の極大化、顧客の満足、株主価値の拡大、といったものに限らず、社会的存在としての企業の役割を強調する視点である。すなわち、CSRとは、企業が活動の基盤とする社会との関わりにおいて負う責任である。企業にとって、CSRを重視する経営とは、日常の企業活動の中に、社会的公正性や倫理性、環境への配慮などを取り込んでいくことである。利潤を極大化し、株主のために利益を生み出すことこそ企業の責務である、という

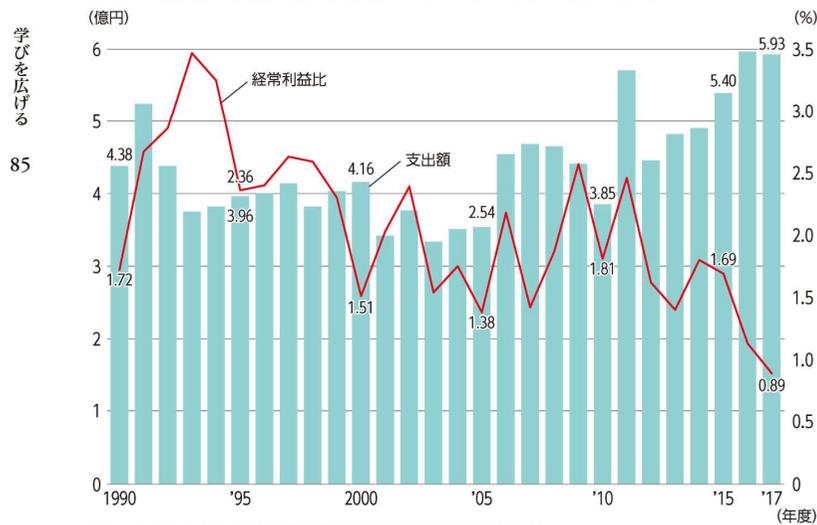
トリプルボトムラインの概念図



リプルボトム・ライン」(triple bottom line)は、象徴的な概念である。これは、英国のコンサルティング会社の代表が、一九九七年に提示した概念で、経営において、経済性、環境重視、社会性の三つの側面のバランスがとれている企業だけが、「持続可能な発展」を許される、というものである。この考え方は、短期間に世界中に広まった。この概念が、現在のCSRについての最大公約的な認識とみなしてもよいであろう。

〔国立国会図書館調査と情報第四七六号〕二〇〇五年

企業の社会貢献活動支出額と経常利益に対する支出額比の推移 (平均)



出典：『2017年度社会貢献活動実績調査結果』(日本経済団体連合会)  
調査対象：経団連会員企業、および1%クラブ法人会員企業等(計1,394社)  
回答企業数：337社・グループ(回答率：24.1%) 連結対象企業を含めると約13,400社の実績を反映

ような考え方は、今日、大きく後退しつつある。また、質のよい製品を消費者に供給することが企業の社会的責任である、という考え方も、それだけでは十分ではない。社会的存在としての企業は、株主や消費者だけでなく、企業活動の中で関係を取り結ぶ、あるいは影響を与えるさまざまな社会集団のことを考慮しなくてはならない。企業の従業員、工場が立地している地域社会の住民などの社会グループ、取引のパートナーなどの、企業が関わる全ての人々はステークホルダー(利害関係者)と呼ばれ、CSRを論じる際の重要なキーワードの一つとなっている。しかし、CSRを、単に、社会やステークホルダーに対する企業の一方的な貢献と捉えることも正しくない。CSRへの積極的な取り組みは、企業経営そのものの見直しにもつながることから、企業の競争力の強化に資するものと考えられている。経営の効率化やリスクマネジメントの強化により、投資家の高い評価を受けることもなる。CSR経営は、長期的には企業価値を高め、企業にとってプラスとなりうる。かつては、CSRを社会的義務として捉え、企業の社会的義務に付随するコストであるという見方が多かったが、近年は、CSRの推進は、企業の収益性と両立しようとの認識が広まりつつある。つきつめて言えば、企業が社会の一員として、一般市民と同様の立場で、環境や社会との共生調和を追求することが、とりもなおさず、企業自身の持続可能性に寄与する、ということになる。この意味で「ト

さまざまな課題・活動を含む**多様なテキスト**を提示しています。

単元テーマや教材に関連した「コラム」を随所に配置。探究的な学びにもつながるミニ教材として使えます。

コラム  
「人新世」の環境危機

斎藤幸平

人類の経済活動が地球に与えた影響があまりに大きいため、ノーベル化学賞受賞者のパウル・クルツェンは、地質学的にみて、地球は新たな年代に突入したといい、それを「人新世」(Anthropocene)と名付けた。人間たちの活動の痕跡が、地球の表面を覆いつくした年代という意味である。

実際、ビル、工場、道路、農地、ダムなどが地表を埋めつくし、海洋にはマイクロプラスチックが大量に浮遊している。人工物が地球を大きく変えているのだ。とりわけその中でも、人類の活動によって飛躍的に増大しているのが、大気中の二酸化炭素である。

ご存じのとおり、二酸化炭素は温室効果ガスの一つだ。温室効果ガスが地表から放射された熱を吸収し、大気は暖まっていく。その温室効果のおかげで、地球は、人間が暮らしている気温に保たれてきた。

ところが、産業革命以降、人間は石炭や石油などの化石燃料を大量に使用し、膨大な二酸化炭素を排出するようになった。産業革命以前には二八〇ppmであった大気中の二酸化炭素濃度が、ついに二〇一六年には、南極でも四〇〇ppmを超えてしまつ

た。これは四〇〇万年ぶりのことだという。そして、その値は、

今この瞬間も増え続けている。  
四〇〇万年前の「鮮新世」の平均気温は現在よりも二〜三度高く、南極やグリーンランドの氷床は融解しており、海面は最低でも六メートル高かったという。なかには一〇〜二〇メートルほど高かったとする研究もある。

「人新世」の気候変動も、当時と同じような状況に地球環境を近づけていくのだろうか。人類が築いてきた文明が、存続の危機に直面しているのは間違いない。

近代化による経済成長は、豊かな生活を約束していたはずだった。ところが、「人新世」の環境危機によって明らかにやつつあるのは、皮肉なことに、まさに経済成長が、人類の繁栄の基盤を切り崩しつつあるという事実である。

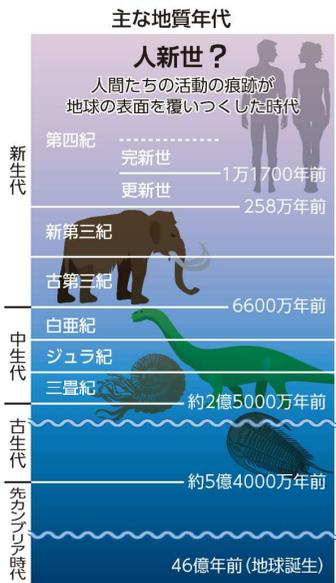
気候変動が急激に進んでも、一部の人は、これまでどおりの放埒な生活を続けることができるかもしれない。しかし、私たち庶民のほとんどは、これまでの暮らしを失い、どう生き延びるのかを必死で探ることになる。

そのような事態を避け、よりよい未来を選択するためには、市民の一人一人が当事者として立ち上がり、声を上げ、行動しなければならぬのだ。そうはいっても、ただ闇雲に声を上げるだけ

では貴重な時間を浪費してしまう。正しい方向を目指すのが肝腎となる。  
この正しい方向を突き止めるためには、気候危機の原因にまでさかのぼる必要がある。その原因の鍵を握るのが、資本主義にはかならない。なぜなら二酸化炭素の排出量が大きく増え始めたのは、産業革命以降、つまり資本主義が本格的に始動して以来のことだからだ。

(出典『人新世の「資本論」』二〇二〇年)

- \*パウル・クルツェン Paul J. Crutzen 一九三三年〜二〇二一年。オランダの化学者。オゾンホールの研究で知られる。
- \*マイクロプラスチック microplastics (英語) 一般に五ミリメートル以下の微細なプラスチック類のことをいう。海洋などの環境に長期に滞留し、蓄積していくと考えられている。
- \*ppm 百万分率。成分比や濃度を示す単位。百万分のいくつにあたるかを示す。parts per millionの頭文字をとったもの。
- \*グリーンランド Greenland (英語) 北アメリカ北東部にある世界最大の島。デンマーク領。大部分が北極圏に属し、厚い氷雪におおわれている。



「人新世」の環境危機 87

86



## 読書の扉



新・環境倫理学のすすめ  
増補新版  
加藤尚武

『環境倫理学のすすめ』の続編。温暖化、持続可能性、石油資源、貧困、生態系などの課題から、環境倫理学を具体的に解説。



自然再生  
監谷いづみ

『征服型戦略』の破綻の結果として限界を超えた地球生態系。著者は、あらゆる知恵と知識を動員し、「積極的共生型戦略」に未来を託すことを提唱する。



人新世の「資本論」  
高藤幸平

経済活動が地球を破壊する「人新世」。それを防ぐためには資本主義の限界なき利潤追求を止めなければならない。だが、資本主義を捨てた文明に繁栄はありうるのか。



経済学は温暖化を解決できるか  
山本隆三

地球温暖化は「経済的手法」で解決できるのか。温暖化問題の歴史や日本を含む各国の政策をふまえ、「経済的手法」を分析する。



石油の「埋蔵量」は誰が決めるのか?  
岩瀬昇

地球温暖化とも密接に関わるエネルギー問題。中でも重視される石油と天然ガスに関わる世界の現状を、複眼的な視点から解説する。



沈黙の春  
レイチェルカーソン  
青樹梁一訳

自然を破壊し人体をむしばむ化学薬品の浸透、循環、蓄積を追究し、何をなすべきかを訴える。一九六二年、化学物質による深刻な環境汚染への警告を、最初に発した一冊。

### 単元の振り返り

- 「環境倫理」という考えを理解できたか
- 人類の環境への影響について考えを深められたか
- 「企業の社会的責任（CSR）」について調べ、考えたことを発表できたか
- さらなる学びへの意欲や関心をもてたか



単元ごとに振り返り項目を明示。観点別評価にもつながります。

単元末には、関連図書紹介「読書の扉」を配置しています。

これからの時代を生きる高校生にとって、「今、知っておくべき」分野とテーマが精選されています。

## 第一部

# 八

## 「市民社会」について考える

「市民社会」についての考えを深める



### 「市民」のイメージ

アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える

「である」「こと」「する」「こと」

「市民社会」における権利と義務について考える

学びを広げる

### 「市民社会」について考える

資料 国政選挙における年代別投票率について

資料を読み、「市民社会」について自分の考えをまとめ、討論しよう

「コラム」懐疑をいかに乗り越えるか

日野啓三

丸山真男

総務省

橋爪大三郎



講演、対談、政府資料など、**多様なテキスト**を掲載しています。

## 講演

# 持続可能な福祉社会への道

ひろいしのり  
広井良典

250

### 人口減少時代の社会構想

我が国は人口減少社会をたどっています。それは確かに多くの課題を私たちにつきつけますが、私はそこにプラスの可能性も宿っているのではないかと思います。経済成長期は物質的な豊かさを得てきましたが、残念ながら「過労死」という言葉があるように、かなり急な坂道を上ってきました。また、急激な変化の中で失ってきたものもあるのではないのでしょうか。

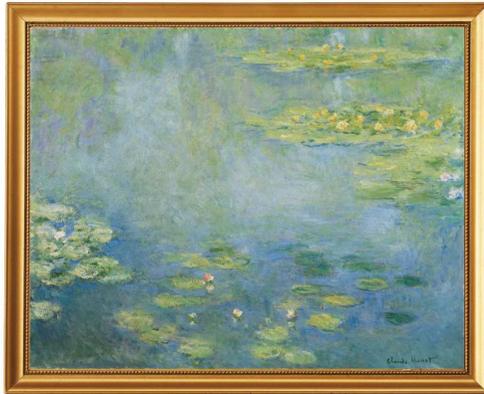
① ② ③  
④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧  
⑨ ⑩  
⑪ ⑫  
⑬ ⑭  
⑮ ⑯  
⑰ ⑱  
⑲ ⑳  
㉑ ㉒  
㉓ ㉔  
㉕ ㉖  
㉗ ㉘  
㉙ ㉚  
㉛ ㉜  
㉝ ㉞  
㉟ ㊱  
㊲ ㊳  
㊴ ㊵  
㊶ ㊷  
㊸ ㊹  
㊺ ㊻  
㊼ ㊽  
㊾ ㊿  
「あなただけのかえる」の見つけ方  
みなさんは、美術館に行くことがありますか？  
美術館に来たつもりになって、次の絵を「鑑賞」してみてください。  
さ。

LINE

すえななゆきは  
末永幸歩

154

他教科連携、STEAM教育など**多様な学び**につながる題材も取り上げています。



クロード・モネ (1840~1926年)

### 睡蓮

1906年頃 / キャンパスに油彩 大原美術館蔵

印象派の中心人物として知られるモネが、彼が愛した水生植物の睡蓮を題材に、季節や時間とともに変化する光の効果を捉えた一連の絵画作品の一つ。岸や空を描かず、大胆に水面だけを描いた構図からは、日本美術の影響も感じられる。

さて、ここで質問です。

いま、あなたは「絵を見ていた時間」と、その下の「解説文を読んでいた時間」、どちらのほうが長かったですか？

おそらく、「ほとんど解説文に目を向けていた。」という人がかなり多いはず。あるいは、「鑑賞？ なんとなく面倒だな……。」と感じて、すぐに読み進めた人もけっこういるかもしれません。私自身、美大生だった頃はそうでした。美術館を訪れることは多かったにもかかわらず、それぞれの作品を見るのはせいぜい数秒。すかさず作品に添えられた題名や制作年、解説などを読んで、なんとなく納得したような気になっていました。

いま思えば、「鑑賞」のためというよりも、作品情報と実物を照らし合わせる「確認作業」のために美術館に行っていたようなものです。これでは見えるはずのものも見えませんが、感じられるはずのものも感じられません。

とはいえ、「作品をじっくり鑑賞する」というのは、案外けっこう難しいものです。じっと見ているつもりでもだんだんと頭がぼーっとしてきて、いつのまにか別のことを考えていたりもします。いかにも想像力を刺激してくれそうなアート作品を前にしても、こんな具合なのだと思えば、まさに一事が万事。

「自分なりのものの方・考え方」などとほど遠いところで、

現代社会の主要テーマ8つを見開きで概説する「現代社会を読み解くために」を、巻末に掲載しています。

現代社会を読み解くために  
2  
環境問題

環境問題の歴史は、近代の産業革命にまでさかのぼる。

産業革命は、石炭や石油などの化石燃料をエネルギーとして利用する、大量生産・大量消費の社会経済システムを生み出した。こうした活動が拡大する中で発生したのが、産業公害である。工場から排出された汚染物質が人体に影響を与え、多くの被害者を生み出す結果となった。

その後、都市化が進む中で問題になったのが、都市生活型公害である。都市生活によって環境に過度の負荷がかかるようになり、自動車の排ガスによる大気汚染、自動車等の騒音、生活雑排水等による河川の汚濁、地下水の過剰くみ上げによる地盤沈下などの問題がもたらされた。生活の便利さや快適さを追求すれば追求するほど、環境汚染というマイナスの副産物が生み出され、結果的に私たちの安全な生活が脅かされることとなったのである。

二十一世紀を迎えた現在では、国境を超えた地球規模の環境問題が表面化している。二酸化炭素やメタンなどの温暖化ガスにより、地球の平均気温が上昇しており、こうした地球温暖化は、海面上昇、砂漠化、洪水や干ばつなどの異常気象、生態系の変化、食糧危機などを引き起こす要因となっている。

また、化石燃料を燃やすと生じる硫酸酸化物や窒素酸化物は、酸性雨の原因となる物質で、樹木を枯らしたり、生物を死滅させたりして、生態系に悪影響を与えている。先進国で利用するための大規模な伐採が主な原因で、アフリカや南米、東南アジアなどの熱帯雨林が減少し、二酸化炭素を吸収するはたらきをもっている樹木が急速に減少している。さらに、焼畑耕作、開墾、過剰な放牧や、宅地化なども原因となっており、その背景には開発途上国の貧困や人口の増加の問題がある。熱

関連教材 ○世代間倫理としての環境倫理学…66  
○人類による環境への影響…74 ○南の貧困/北の貧困…297  
○リスク社会論…352 ○コンクリートの時代…368

帯林の伐採は、熱帯林の豊かな生物多様性にも影響を与えている。

地球環境問題は、フロンによるオゾンホールの形成、プラスチックによる海洋汚染、開発途上国の公害、有害廃棄物の越境移動など多岐にわたる。これらは、発生源や被害が広い範囲に及び、影響も長期にわたるため、特定の国や地域が取り組むだけでは解決が難しく、地球規模での取り組みに広げていく必要がある。

このような中、二〇一五年に国連の持続可能な開発のための国際目標としてSDGsが採択された。また同年に、京都議定書に代わる、脱炭素社会の実現に向けた国際枠組みとしてパリ協定も採択された。これらは、先進国と開発途上国の双方が同じ目標に向かって取り組むことを宣言しており、地球規模での取り組みの第一歩として評価できる。また、環境問題への取り組みは、地域の生活に根ざ

したレベルでも進められている。ごみを減らし、製品を再利用し、再生できるものを資源として再生するという3R (Reduce Reuse Recycle) の推進は、再利用や再生によって環境負担を減らす循環型社会を目指すものである。

世界の人口は今後も爆発的に増加し続け、資源・エネルギー需要も増加すると予想される。そうした中で目指すべきは、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求も満たすような開発が行われる持続可能な社会を実現することである。カギになるのは「持続可能性」という考えだ。地球環境が適切に保全され続ける、自然の環境容量を考慮した持続可能な経済社会システムの構築が求められる。

語句の解説

●生物多様性

いろいろな生物が存在し、互いにバランスを保ちながら結びついていることが、地球環境だけでなく食べ物や人間の生活などに恵みを与えることになる。生物多様性条約(一九九二年に国連環境開発会議で採択、翌年発効)では、生態系・種・遺伝子の三つのレベルで多様性

があるとしている。

●オゾンホール

地上十〜五十キロメートル付近に大気のオゾン層があり、太陽からの紫外線を吸収している。精密電子機器の洗浄や冷蔵庫、スプレーなどにフロンが利用されていた。このフロンが大気中に排出され、オゾン層を破壊しオゾン層の濃度が低くなった所がオゾンホールである。このためオゾン層の紫外線防止機能が失われ、直接紫外線を浴び、がんを発症しやすくなる危険が生じている。

●SDGs (Sustainable Development Goals)

SDGs (持続可能な開発目標) は、二〇一五年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、二〇一五年九月の国連サミットで策定された国際目標である。二〇三〇年までに持続可能でよりよい世界を目指す「持続可能な開発のための二〇三〇アジェンダ」として採択された。十七のゴール・百六十九のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。開発途上国の開発目標を定めたMDGsと異なり、先進国も含めて全ての国に適用される点でユニバーサルなものとなっている。

●パリ協定

パリ協定は、二〇一五年十二月に国連気候

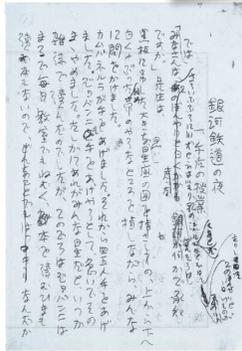
変動枠組条約第二十一回締約国会議で、世界約二百か国が合意して成立した。一九九七年に定まった京都議定書の後を継ぎ、国際社会全体で温暖化対策を進めていくための礎となる条約で、世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して、二℃より充分低く抑え、一・五℃に抑える努力を追求することを目的としている。途上国を含む全ての参加国に、排出削減の努力を求め枠組みとして成立した点、各国に自主的な取り組みを促すアプローチが模索され、採用された点で、歴史上画期的なものとなった。

●持続可能性

「サステイナビリティ (Sustainability)」と表記される。環境・社会・経済などが将来にわたって適切に維持・保全され、発展できることをいう。「持続可能な開発 (Sustainable Development)」は、「環境と開発に関する世界委員会」が一九八七年に公表した報告書「Our Common Future」の中心的な考え方として取り上げた概念で、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」を意味する。これを実現するには、経済成長、社会的包摂、環境保全の調和を図ることが不可欠である。

関連する本編教材の参照ページも示しています。

巻末コラム「読解から表現へ」では、「読む」と「書く」とをつなぐ7つの方法について、簡潔にまとめています。



宮澤賢治『銀河鉄道の夜』自筆原稿

〈書き手〉の立場と〈読み手〉の立場を何度も行き来しながら、自分の文章が内容と形式を伴って相手に伝わるように推敲しよう。



読解から表現へ

7

推敲 すいこう

1.....推敲の仕方

- ① 文体を統一する。敬体(です・ます)と常体(だ・である)を混用しない。
- ② 会話口調をそのまま地の文に用いない。×思ったんだけども×思ったのだが
- ×違くて ↓○違つて
- ×なので ↓○それゆえ
- ×ハマっている ↓○熱中している
- ③ 省略語を用いない。
- ×ファミレス↓ファミリレストラン
- ×バイト ↓○アルバイト
- ④ 疑問符(?)や感嘆符(!)などの符号を避け、言葉で伝わるように表現する。
- ⑤ 縦書きの文章では、原則として漢数字を使用する。
- ×3度の食事 ↓○三度の食事
- ⑥ 修飾語をいくつも重ねたくだい表現や、同じ意味の言葉・語句の重複は避ける。

課題

次の文を推敲してみよう。

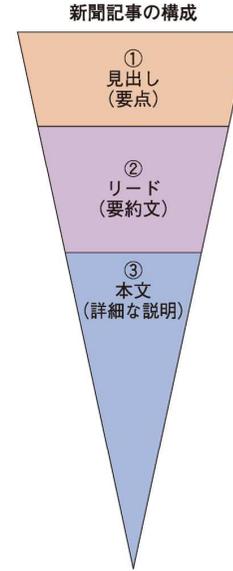
- ×驚くほどすばらしくみごとな業績
- ×どちらかを選択して選びなさい
- ⑦ 主語と述語を対応させる。長い文は二文に分けるなど工夫する。
- ×私にとって旅はすごくたくさんな刺激をとつても与えてくれるもので、まだ見ぬ世界に期待をふくらませている。
- 旅は私に多いなる刺激を与えてくれる。まだ見ぬ世界に、期待がふくらむ。
- 1 私にとって高校生時代に夢中! になったことっていうと、高校時代のころ、部員が少なくてホント困ったんだけど、所属してた吹奏楽部でだと、演奏してたトラペットを吹くということですよ。
- 2 地球温暖化が進んでいるという原因はというと、私たち人間のせいです。ゼッタイするべきなのは、他国の対応を真似したりするだけなのは違くて、メディアとかもって活用して、環境問題をもっとアピールするべきだってこと。

付録では、報道の文章の特徴や論文・レポートの書き方など、実践的な参考資料を掲載しています。

報道の文章

新聞記事の構成

新聞記事の構成は、①見出し(要点)・②リード(要約文)・③本文(詳細な説明)から成り立っているが(左図参照)、これらは、結論↓説明↓補足と、大事なところが先にくる、逆三角形型で整理されている。また、読者に記事の内容をすばやく、わかりやすく伝えるために、④写真や⑤グラフが活用される。



①見出し(要点) 記事の内容の要点を伝えるためには、短くかつ的確な言葉が選ばれる。

10

②リード(要約文)

【例1】は一行めの文字数が多いために余白が少なく、息苦しい印象を与えている。加えて三行にわたって書かれているので記事の中心が見えない。一方【例2】は、原文の一部が省略されているが、これだけでも内容は伝わる。読者の読む意欲を引き出すために、見出しは簡潔であることが求められる。

5

【例2】 新メニューにBLTサンド アンケートで最多得票

2019年度 食堂委員会

【例1】 食堂新メニューにBLTサンド決定 全校生徒アンケートで最多票を獲得

二〇一九年度食堂委員会開かれる